

モチベーション低下の構造

マズローの欲求5段階説

これは、アメリカの心理学者アブラハム・マズローが提唱した理論で、ひとりで言うところ、人間の欲求は5段階のピラミッドのように構成されていて、「低階層」の欲求が満たされることで、より高次の階層の欲求を欲するようになるというものです。

第1階層は「生理的欲求」（食事、睡眠等）、第2階層は「安全欲求」（住居、健康等）、第3階層は「社会的欲求」（所属、仲間等）、第4階層は「尊厳欲求」（承認、尊敬等）、そして第5階層に「自己実現欲求」（創造的活動）があり、わが社がポエムのように繰り返す「モチベーションUP」はこの第5階層の話です。ご存じの通り、コロナ禍に入ってから約三年間、会社のボーナス連続低額回答をはじめとして、賃金収入が大幅にカットされた上、BPR等により、現場における業務効率まで下げられ、社員の負担は著しく増大しました。「住宅ローンが払えない」「昼食はカップ麺しか買えない」「年休が取れない」「仕事量が増えて疲れが半端ない」等、右記の理論でいう「低次」の欲求が何一つ満たされていない状態。地盤が悪い所には家が建たないのと同じで、私たちの「モチベーション」が上がる要素などありません。

無意義な「意見交換会」

現在、全社員を対象に行われている謎の「意見交換会」。会社と言うには、「ここ数年、離職者があまりに多く、社員意識調査の結果も酷過ぎる。わが社では、多くのイベントを通して、社員同士の交流が活発に行われ風通しも良いはずなのに、一体、何の不満があるのか？是非とも社員の考えが知りたい」とのこと。呆れまですね。とある「意見交換会」では、当然のごとく、不満の元凶である「賃金」の問題について多くの方が突っ込んだようですが、会社側は、「人間が幸せになる最終的な手段はお金ではない。お金があれば確かに幸せかもしれないけれど、その幸せにはいくつか限界がある。仕事を通して、自分がどういう人間になりたいか、この部分をもっと大事にして欲しい。」といった主旨の何とも宗教じみた回答を示したそうです。もちろん、理論上間違いではない。しかし、いま私たちが主張しているのは、他でもなく「人間らしい最低限度の生活」を営む権利であり、会社は、社員に「夢を持って」と言う前に、これを保障する義務があるのではないですか？

そもそも論として、私たちが提供する「商品」（労働力）の対価として受け取るべき賃金を安く買い叩くのは、「窃盗」と同じです。



会社自らの悪行を省みることなく、「意見交換会」とかやる時点で、社員を軽視しているよね。

第 176 号

2023年 7月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

NTT 092-483-1515



若い力